

<報道各位>

2022年5月17日(火)

株式会社明電舎

明電システムソリューション株式会社

中央労働災害防止協会

「VR 安全体感教育」のラインナップを強化
中災防と共同で新コンテンツを開発

株式会社明電舎（取締役社長：三井田 健/東京都品川区 以下明電舎）とその子会社である明電システムソリューション株式会社（取締役社長：鈴木 典芳/静岡県沼津市 以下MSS）、中央労働災害防止協会（会長：十倉 雅和/東京都港区 以下中災防）は、共同で「VR 安全体感教育」※1の新たなコンテンツを開発しラインナップを強化します。

製造業においては、はさまれ・巻き込まれにより重篤な労働災害となる割合が最も高いことから、共同開発の第一弾として、ロール機での事故をバーチャルで体感する「ロール機への巻き込まれ」に関するコンテンツを開発し、5月25日にリリースします。

【背景】

明電舎では、2008年からグループ従業員を対象に、危険感受性を高めるための教育として「安全体感教育」を展開しています。2016年からは社外向けにも主に製造現場や建設現場等にて実施する出張教育を外販しており、これまで延べ27,000名以上にご受講いただき好評を得ております。また、VR（バーチャル・リアリティ）により労働災害を疑似体験できる

「VR 安全体感教育」を開発し、社内外における教育で運用しています。

一方、中災防では、「全ての働く人々に安全・健康を ～Safe Work, Safe Life～」の経営理念のもと、幅広い業種における“ゼロ災”実現のための教育・研修などを開発・提供しています。そのひとつである「危険体感教育実践セミナー」では、2021年から明電舎の安全体感教育のコンテンツを活用しています。

これまでの明電舎の安全体感教育は主に製造業・建設業向けに開発・提供してきたところですが、中災防は、製造業を中心に多業種における労働災害防止のための各種サービスの提供実績（個別企業等に対する安全衛生の技術的支援、指導、研修会、図書・用品の販売等情報提供事業など）を有することから、両者が共同で開発することにより、幅広い分野で働く方々の労働安全衛生意識の向上に寄与できるものと考えております。

【コンテンツの共同開発について】

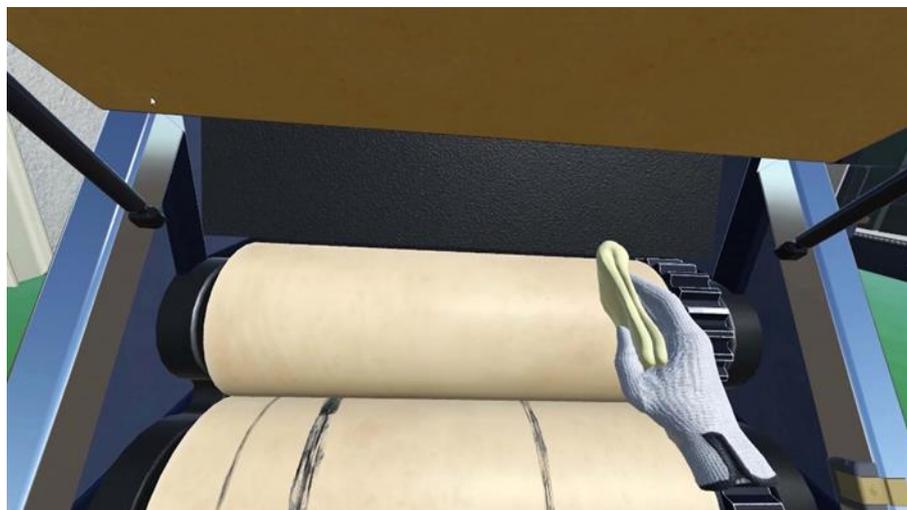
中災防は、様々な業種における労働災害発生シナリオの作成を担当し、明電舎とMSSは、そのシナリオをVR上で再現する「VR 安全体感教育」コンテンツの制作を行います。

3者は共同して年間4本程度のコンテンツを開発する予定で、その第一弾として“ロール機への巻き込まれ”コンテンツを開発し、明電舎から5月25日にリリースします。

これらのコンテンツは、明電舎が実施する安全体感教育、中災防が実施する研修会等の両方の場を通じて体感できます。

< “ロール機への巻き込まれ” コンテンツ >

ロール機は、ローラーを用いてゴムや樹脂、金属材料などを加工する機械で、幅広い業種で使われています。コンテンツでは、誤った作業方法で発生する危険な状況をVR上で再現し、災害を疑似体験することで安全衛生への意識の向上を図ります。



【“ロール巻き込まれ” の1シーン】

今後も「クレーンによる挟まれ」、「フォークリフトによる激突」などのコンテンツを順次開発する予定で、両者が共同して労働災害撲滅のための安全教育を推進してまいります。

以上

※1：VR安全体感教育とは、VR（Virtual Reality：仮想現実）で労働災害を安全に疑似体験し、危険の臨場感を体に記憶させることで、危険に対する感受性を高めることが可能な安全教育システムです。

■明電舎 VR 安全体感教育 WEB サイト

（コンテンツ動画や各種サービスのレンタル、サブスク、販売等のお問い合わせはこちらからご覧ください）

https://www.meidensha.co.jp/mss/system/sys_07/sys_07_01/index.html